

第76回剣道指導者研修会 報告書

- a 実施期間 令和5年11月11日(土)～11月12日(日)
b 実施場所 全日本少年剣道錬成会館
c 実施内容

指導者の指導力・技術の向上を目的とした剣道指導者研修会を、全日本少年剣道錬成会館で開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年、3年度に中止した本講習は、昨年度の第75回時に通常3日間の日程で行っていた講習内容を2日間に短縮して実施し、今回も同様に2日間の日程で行った。当初は各自宿泊場所を用意し通いのみの講習とする予定だったところ、他の行事の関係から申し込み人数が例年より若干少なかったため、遠方からの参加者は宿泊可とし、数名が錬成会館に宿泊した。

講習初日、梯正治講師、中田琇士講師、水田重則講師の到着後、本部講師である岩立三郎講師、豊村東盛講師、栗田和市長講師の全講師による打ち合わせを経て、予定を若干過ぎ13時05分に開講式を始めた。岩立三郎講師より全日本剣道道場連盟副会長として挨拶を頂いた後、講師陣を紹介し早速講習に移った。

直ちに実技指導(立会)を開始し、中田講師、岩立講師、栗田講師と、梯講師、水田講師、豊村講師の2組に分かれ、立会(審査)形式により合計9グループに対し指導が行われた。研修生の現在の技量を計ると共に、審査に向けたアドバイスのみならず剣道技術向上や普段の稽古で留意する点に関する的確な指摘が、各講師から研修生ひとりひとりに懇切丁寧に説明された。

立会い終了後、15時30分より準備運動、素振りを行い、豊村講師指揮のもと基本稽古を行った。続けて相互稽古を行った後、講師元立ちによる指導稽古を行い、17時15分に初日の講習を終了した。

二日目は9時より梯講師による講話から開始した。梯講師は研修生に事前に配布した講師作成のレジュメをもとに、剣道指導者として必要な要件、自身の技量や教える側としての技術面、精神面や、審査を受ける時の姿勢、審査員を行う時の着眼点など広く解説され、剣道指導に携わる心構えを高める講話を頂いた。

引き続き、中田講師解説のもと日本剣道形に移った。中田講師は剣道形の基礎となる刀の握り方、木刀との扱い方の差、注意点などを解説し、各技の詳細を説明すると共に、水田講師と手本を示しながら、各研修生は仕打を交代しながら形の稽古を行った。

昼食時間を挟み、午後の部は準備体操の後、13時20分頃より、前日の組み合わせを入れ替え異なる担当講師、異なる相手により本講習2回目の立会い指導を行った。初日をふまえ、ひとりひとりに対し各講師から懇切丁寧な指導が行われ、15時5分頃、立会い稽古を終了した。

特別講師の小山則夫教士八段、高橋海有教士八段を迎え、相互稽古、元立ち稽古を開始し、時間が押していたため終了時間を30分延ばし、16時に全ての稽古を終了した。

閉講式では、講師を代表し、岩立講師より講評が述べられた。岩立講師はコロナ禍において剣道鍛錬を怠ってしまった講師自身の反省の気持ちを述べ、生活の中でできることを意識して行っていくこと、目標を持って稽古に望んでほしいこと等を研修生に伝えた。16時15分、2日間に亘る研修会のすべてを終了した。

充実した研修会になったが、その後電車の遅延により遠方からの参加者が帰宅に間に合わない可能性が出るなどの問題が発生した。コロナ禍以前は3日間の最終日は午前で終了しており、2日間の日程において終了時間を夕方に変更し弊害が出たことは今後の検討課題となった。

d 参加人数 39名

講 師	梯 正治	範士八段
	中田 琇士	範士八段
	水田 重則	範士八段

特別講師	小山 則夫	教士八段
	高橋 海有	教士八段

本部講師	岩立 三郎	範士八段
	豊村 東盛	範士八段
	栗田 和市郎	範士八段

第 77 回剣道指導者研修会 報告書

- a 実施期間 令和 6 年 3 月 23 日（土）～ 3 月 24 日（日）
- b 実施場所 全日本少年剣道錬成会館
- c 実施内容

指導者の指導力・技術の向上を目的とした剣道指導者研修会を、全日本少年剣道錬成会館で開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和 2 年、3 年度に中止した本講習は、昨年度の第 75 回開催以降、通常 3 日間の日程で行っていた内容を 2 日間に短縮しており、今回も引き続き 2 日間の日程で行った。遠方からの参加者は宿泊可とし、複数名が錬成会館に宿泊した。

講習初日、遠藤正明講師、東良美講師、松田勇人講師及び本部講師である岩立三郎講師、豊村東盛講師、栗田和市長講師の全講師による打ち合わせを経て、13時30分に開講式を始めた。岩立三郎講師より全日本剣道道場連盟副会長として挨拶を頂いた後、講師を代表し遠藤講師より「せっかくの講習ですから、厳しいことを言うこともあるかも知れませんが、和気藹々と楽しく良い 2 日間になればと思います」との挨拶を頂いた。その後、改めて講師陣を紹介し早速講習に移った。

直ちに実技指導（立会）を開始し、東講師・岩立講師・栗田講師と、遠藤講師、松田講師、豊村講師の 2 組に分かれ、立会（審査）形式により各 3～4 名の全 11 グループに対し指導が行われた。研修生の現在の技量を計ると共に、審査に向けたアドバイスのみならず、剣道技術向上や普段の稽古で留意する点など各講師から研修生ひとりひとりに説明された。

立会い終了後、15時50分より東講師の実技指導（基本）に移った。東講師解説のもと素振りを行った後、面をつけての基本打ち講習に入った。通常の基本稽古から更に一步踏み込んだ内容となり、相手の技を引き出す攻めや、構えを崩しての技など、実戦を踏まえた打ち込み等、高段者に向けた基本指導が懇切丁寧に行われた。

続けて相互稽古を行った後、特別講師の武田康基教士八段を迎え、講師元立ちによる指導稽古を 2 分ずつ区切り 18時00分まで繰り返し行い、初日の講習を終了した。

二日目は 9 時より遠藤講師による講話から開始した。遠藤講師はご自身の経験をもとにした剣道技術の解説や、立会いにおける意識の持ち方、剣道の名士であった諸先生方から聞いた言葉や解釈を紹介され、研修生が今後の稽古を行うにあたり多くのヒントとなるお話を頂いた。

引き続き、松田講師解説のもと日本剣道形に移った。剣道形の五つの構えから丁寧に指導があり、栗田講師と手本を示しての各技の詳細の説明を挟みながら、研修生は仕打を交代し形の稽古を行った。限られた時間ながら、太刀の形、小太刀の形全てを通し充実した講習となった。

昼食時間を挟み、午後の部は 13時00分より、前日の組み合わせを入れ替え、異なる担当講師、異なる相手により本講習 2 回目の立会い指導を行った。初日をふまえ、ひとりひとりに対し各講師から懇切丁寧な指導が行われ、予定より 20 分時間を過ぎ 14時40分頃、立会い稽古を終了した。

東講師より30分間の実技指導（基本）の講習を行う予定であったが、若干予定を変更し、14時45分頃より東講師指導のもと素振り、基本打ち、数回の相互稽古を行い、15時00分より特別講師に小山則夫教士八段を迎え、直ちに元立ち指導に移った。2分ずつ時間を区切り15時45分まで稽古を行った。

閉講式では、講師を代表し遠藤講師より講評を頂き、また岩立講師より主催者として挨拶頂いた。剣道を長く続けられるよう、健康に十分注意するよう研修生に伝えられた。16時00分、2日間に亘る研修会のすべてを終了した。

今回も短い期間であったが大変充実した講習内容となり、ご協力頂いた講師陣に深く御礼申し上げる次第である。

次年度秋の開催については参加人数、宿泊対応の都合で会場の変更を視野に入れた検討が必要であるが、開催期間を3日間に戻すことを予定している。引き続き、講習の充実に向け内容の再考を図っていく。

d 参加人数 50名

講 師	遠藤 正明	範士八段
	東 良美	範士八段
	松田 勇人	範士八段
特別講師	武田 康基	教士八段
	小山 則夫	教士八段
本部講師	岩立 三郎	範士八段
	豊村 東盛	範士八段
	栗田 和市郎	範士八段

令和5年度 東北地区(新潟)指導者講習会 報告書

実施期間 令和5年9月2日(土)～9月3日(日)

実施場所 新潟県 謙信公武道館 新潟県立武道館 大道場

実施内容

本講習会は東北地区及び近隣支部の剣道指導者を対象に、各指導者の交流、本部事務局との意見交換を図り、少年剣道普及を資する事を目的とし新潟県剣道道場連盟主管のもと実施された。

1 日目 12 時、講師及び、県内役員、事務局が顔を合わせ、日程・指導内容の確認を行った。13 時からの開講式では、主管県新潟県剣道道場連盟 佐藤 仁 理事長司会のもと、浅原行雄 新潟県剣道道場連盟会長より開会と歓迎の言葉を込めた挨拶があった。続いて全日本剣道道場連盟専務理事であり本講習会の筆頭講師である豊村東盛範士八段より、講習会の開催の謝辞を含んだ挨拶があり、来賓として見えられた荻荘 誠 新潟県剣道連盟会長より歓迎のご挨拶を頂いた。引き続き事務局より講師紹介、日程の説明の後、早速講習に入った。

1 日目、実技指導の立会いを行う前に豊村講師より、受審に向けての講話があった。内容は資料をもとに日頃より縁を切らない稽古をすることが大切な事、他、今までの数々の注意を受けた事を一度整理し、今、自分に必要な事を見直す事も必要だと説明された。その後、全員で準備運動を行い、審査を想定した立会いを、3 会場で研修生を段別、年齢順に班分けし、4 人 1 組で審査さながらの形式で行った。8 段を受審する7段の組を豊村講師、残りの 7 段の組と 6 段の組を小山講師と山田講師、5 段以下の組を高橋講師と吉田講師が担当し、1 組終了するごとに只今の立会いについて担当講師より、懇切丁寧なアドバイスがあった。審査員として経験豊かな講師のアドバイスは的確であり、今後の修業課題として大いに糧になることと思う。立会い終了後、研修生同士の周り稽古を数回実施。その後、講師の元立ちで指導稽古を 40 分程行って1 日目を終了した。

2 日目の講習は、日本剣道形の講習より行われた。まず豊村講師が資料をもとに日本剣道形の修練上の心得や留意点、を説明した後、小山講師を助手として、数本ごとにポイントや注意点を実践説明し、その後、段別に組まれた者同士で 5 段以下を高橋浩志と吉田講師、6 段を山田講師、7 段を小山講師が担当し、それぞれ実技指導をする形で行われ、大太刀 7 本、小太刀 3 本の全てを修練し午前中の講習を終えた。

午後は、準備運動の後、審査を想定した二回目の立会いを実施した。受講生は各自、自分の力を出し切っていたようにであった。1組終わるごとに講師から前日同様、的確明解なアドバイスを受けて 1 時間 30 分程の立会いを修了し、休憩の後、集合写真を撮り、豊村講師による基本指導が 15 分程行われ、最後に講師元立ちによる指導・

相互稽古を 40 分間行い、稽古終了後、「閉講式」が行われ、浅原行雄 新潟県剣道道場連盟会長が受講生を代表して、講師陣に謝辞が述べられ、講評として豊村全道連専務理事より、まず復習をし、11 月からの審査に臨む方には、審査会場に入ったら帰るまで気を抜かず集中し臨んで頂きたいと激励の言葉と、少子化が進む現在、是非、入門した子供達をほめて育てる、剣道を辞めさせない指導を行って欲しい希望の言葉が述べられ予定通り、15 時 20 分に終了した。

今回の講習会においては東北地区に限らず、隣県の富山県、長野県からの参加者も多数あり、又、地元 新潟県剣道連盟より荻荘 誠会長以下、伊藤文博副会長、瀬野正英専務理事が来席され、荻荘 誠会長より今後、県剣道連盟と道場連盟の連携を一層深めて行きたいとのお言葉を頂き、当初の目的以上の成果を残せたのではないかと感じる次第である。

最後に今回の講習会において、講習会の告知から準備をして頂いた新潟県剣道道場連盟の役員、事務局の皆様に深く感謝の意を表します。

受講生 100 名

本部講師 豊村 東盛 範士八段 小山 則夫 教士八段

地元講師 山田 義雄 教士八段 高橋 直志 教士八段 吉田 仁 教士八段

令和5年度 関東地区(神奈川)指導者講習会 報告書

実施期間 令和5年10月28日(土)～10月29日(日)

実施場所 星槎高等学校 体育館 (神奈川県横浜市)

実施内容

本講習会は関東地区及び近隣支部の剣道指導者を対象に、各指導者の交流、本部事務局との意見交換を図り、少年剣道普及を資する事を目的とし神奈川県剣道道場連盟主管のもと実施された。

1日目 12時30分、講師及び、県内役員、事務局が顔を合わせ、日程・指導内容の確認を行った。13時からの開講式では、主管県神奈川県剣道道場連盟 千葉祐輔事務局長司会のもと、滝澤建治神奈川県剣道道場連盟会長より開会と歓迎の言葉を込めた挨拶があった。続いて全日本剣道道場連盟専務理事であり本講習会の筆頭講師である豊村東盛範士八段より、講習会の開催の謝辞を述べた挨拶があり、引き続き講師紹介、事務局紹介、日程説明を行い、早速講習に入った。

1日目、審判法講習に進むにあたり、豊村講師が審判実技について講話を行った。内容は資料をもとに、コロナ禍における審判法、及び次年度に神奈川で行われる道場対抗・個人選手権に向け全道連の判定基準について触れ、また着装等細かな点について全体的な解説を行った。

その後、ただちに審判実技講習に移った。2試合場に組を分け、第一試合場を地元講師高野力教士八段、三崎恭裕教士八段が担当、第二試合場を本部講師栗田和市長範士八段が担当し、豊村講師が全体を総括した。審判員の所作、位置取り、有効打突の見極め、反則の見極め等について、各組に対し詳細な審判指導が行われた。神奈川支部の運営によりスムーズに進行し、定刻で審判法講習を終了した。

準備体操の後、相互稽古、元立稽古に移った。豊村講師指揮のもと、研修生同士の周り稽古を数回実施し、その後、講師の元立ちで指導稽古を30分程行い、17時05分、講習第1日目を終了した。

第2日目の講習は、引き続き審判法から行われた。1日目と2日目で講習生の入れ替わりが多かったため、2日目のみ参加の講習生を中心に審判実技を行った。

昼食を挟み、剣道形講習に先立ち、剣道形の全体的なイメージを講習生に持ってもらう目的から、高野力講師、三崎恭裕講師による剣道形演武が行われた。その後、直ちに剣道形講習に移った。豊村講師が資料をもとに日本剣道形の修練上の心得や留意点、を説明した。栗田講師を助手として数本ごとにポイントや注意点を実践説明し、手本の演武を行い、グループに分かれ各講師が実技指導をする流れで行われ、大太刀7本、小太刀3本の全てを修練し講習を終えた。

14時30分より、初日同様に相互稽古、指導稽古に入った。20分間回り稽古を行

い、15時05分より元立ち稽古、15時10分に稽古を終了した。

整列の後に閉講式が行われ、滝澤建治神奈川県剣道道場連盟会長が支部を代表して講習会開催の謝辞を述べられ、次年度に開催が予定されている第40回全国道場対抗剣道大会・全国道場少年剣道選手権大会への協力をお願いする旨挨拶された。講評として栗田和市郎常務理事が講習への参加と主管頂いた神奈川県剣道道場連盟の協力を改めて感謝を伝えた。進行がスムーズだったこともあり定刻より20分早い15時10分に全日程を終了した。

今回の講習会においては県内の地元大会と日程が重なる等、2日間のうちのいずれか1日のみ参加する受講者も多かったが、講師陣の指導のもと短時間で集中し実のある講習となった。また会場である星槎高等学校のご厚意により無料で体育館を借りることができた。学校行事の都合で急遽県内講習生の車両来場ができなくなるトラブルはあったものの、神奈川事務局の迅速な対応と学校のご配慮により運営に大きな支障なく講師、講習生とも会場に到着し、無事に講習を執り行うことができた。充実した講習会となり、当初の目的以上の成果を残せたのではないかと感じる。

告知から準備をして頂いた神奈川県剣道道場連盟の役員、事務局、地元講師皆様に改めて深く感謝の意を表します。

受講生 68名(2日間延べ)

本部講師 豊村 東盛 範士八段 栗田和市郎 範士八段

地元講師 高野 力 教士八段 三崎 恭裕 教士八段